

2011 道東TCM(帯広)報告書(U-14)

期 日 平成23年10月29(土)30日(日)

会 場 十勝川サッカー場Bコート

1. 参加選手(14名)

選手氏名	所属チーム	選手氏名	所属チーム
高 倉 響	R. シュペルブ	東 虎次郎	庶路中学校
岡 本 拓 朗	富原中学校	佐々木 史 人	景雲中学校
長 尾 知 幸	鳥取中学校	*3山 田 和 司	SC釧路
吉 田 侑太郎	鳥取中学校	*3坂 野 俊 一	SC釧路
石久保 智 也	鳥取中学校	*3丸 山 竣 平	R. シュペルブ
*1岩 山 紘 己	鳥取中学校	*3佐々木 健 人	鳥取中学校
*2 林 賢 佑	FC阿寒	*3西 尾 駿 佑	鳥取中学校

*1=30日のみ参加

*2=体調不良で欠席

*3=U-13選手

2. はじめに

U-14トレセンでは、主に「守備」を中心としたトレーニングを行ってきた。前回の道東トレセンマッチでも少しずつではあるがその成果が見られたということもあり、今回も守備に重点をおいたコンセプトでゲームに臨むため以下のことをゲーム前に伝えた。

～守備～

- ・個として……正しいポジションをとる、守備の優先順位を考えたアプローチ(インター セプトを狙う)、粘り強い対応(限定)
- ・組織として…中央を閉めて、ボールをサイドや後方に追い出して奪うこと(2nd,3rdDFの関わり)

～攻撃～

- ・攻撃の優先順位を考えた判断のあるプレー
- ・相手の裏を狙う動き(相手との駆け引き)

なお、基本的にはポジションを固定し、試合時間は、30分ゲーム、20分ハーフなど変則的に行われた

3. 結果報告

29日(土)

① vs 十勝南部TC(30分)

得点:

失点:

② vs 十勝東部TC(30分)

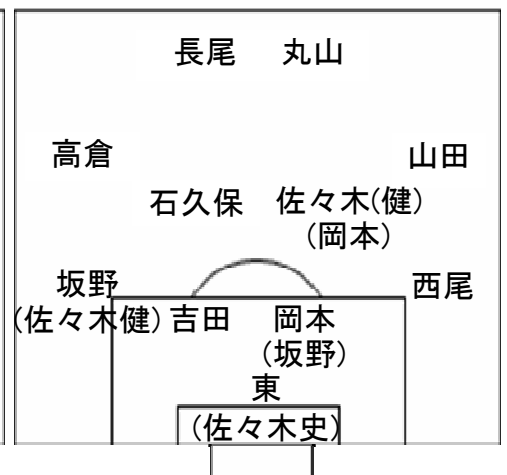
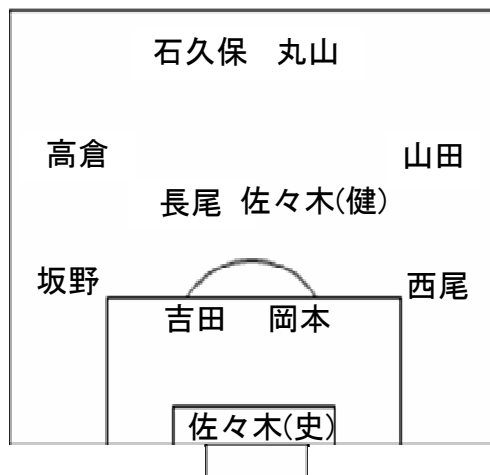
得点:29分

失点:3分、5分、13分

③ vs 十勝中部TC(30分)

得点:

失点:20分、23分



※()内選手は交代出場

ウォーミングアップでの守備への働きかけが不足していたせいもあり、1stDFの寄せがあまりなかったり、マークの距離が遠く相手を自由にプレーさせるなど守備の課題が多かった。1stDFの緩さからチームの守備が崩れたり、ボールウォッチャーやマークを曖昧にすることで簡単に裏をとられピンチを招く場面も多かった。失点はバイタルエリアでのアプローチのコースのずれや距離が遠いためであった。ゲーム中に自分達でコミュニケーションをとりマークやカバーなどを確認することで徐々に改善されていた。

攻撃では全体的にポジションをとるのが遅く(悪く)、選択肢が少ないボールホルダーが孤立してしまいボールを失うことが多かった。ビルドアップでは前線の選手まで観ることができなかつたり、パスの質、特にパススピードが遅く簡単にボールを奪われていた。ボランチ経由での逆サイドへの展開なども少なかった。ゲーム終了後と開始前のミーティングで確認することでトップやボランチにボールが収まるようになり、さらにはサポートの質も高まり厚みのある攻撃が見られるようになっていった。ゲームが進むにつれて、選手も手応えを感じられるような内容になっていった。

30日(日)

① vs 十勝北部TC(20分×3)

得点:37分

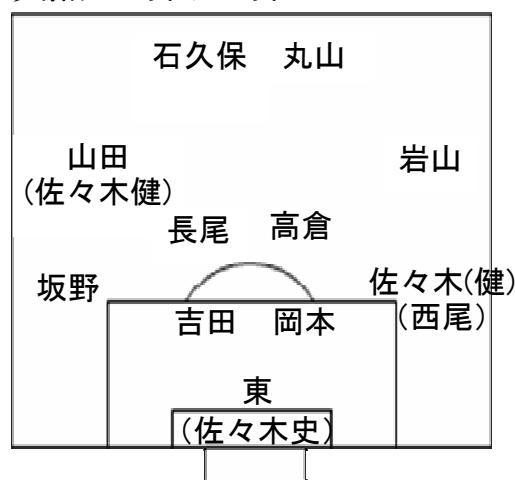
失点:8分、15分、40分、60分



② vs 北見TC(20分×2)

得点:2分、29分

失点:20分、32分



※()内選手は交代出場

前日と同じゲームコンセプトで臨んだが、引き続きよい流れを維持しながらの内容だったように思える。しかし、守備ではインターセプトが狙えなかったときのアプローチの判断や逆サイドの選手のポジションが悪くピンチを招く場面が何度かあったが、粘り強く対応できるように修正されてからはチームの守備も安定していった。より高いポジションをとることで、ボールの奪い所(サイド)も明確化され積極的にボールを奪いに行く姿勢が見られ組織としての守備も浸透しているように思える。

攻撃ではビルドアップでの判断や(ピッチコンディション不良での)コントロールミスからのピンチ、失点があった。ボールホルダーが遠くまで観る、トップ(受け手)がアクションを起こし、パスと同時にいい距離でのサポートが入るといふ厚みのある攻撃も前日以上にコンスタントに発揮されていた。

4. 成果と課題

～守備～

成果 1stDFの積極的なアプローチ、粘り強さ(ONの局面)、2nd、3rdDFの狙いが整っている局面(3対3程度)では効果的な守備ができていた。高い位置でのボール奪取では得点につながるがあった。

課題 (OFFの局面での)基本的なマークの三原則、1stDFのアプローチの判断ミス(インターセプトが無理な場合)からチームの守備が崩れることがあった。逆サイドの選手のポジショニングなど4対4以上の局面になると対応しきれないことがあった。

～攻撃～

成果 (指示されることで)ポジショニング、サポートの質が向上(徐々に指示なしでも)していった。ゲームが進むにつれて攻撃の連動性、厚みのある攻撃が見られるようになった。

課題 パスの質(特にパススピード)、サポートの質(距離)、ボールの置き所(観る・判断)など基本的な技術を常に意識すること。広いサイドからの攻撃(ボランチを経由してのサイドチェンジ)。GKからのビルドアップの工夫。

5. まとめ

攻守共にONの局面では比較的良好なプレーができていた。OFFでの準備がよりよくなることで全体的なプレーの質が向上する。指示なしでも自分達でコミュニケーションをとりながらプレーできることがベスト。必要なことが1つでも欠けていれはうまくいかないことが多い(例えば、判断はよいがパスが弱いetc)。基本的な部分を理解していることはプレーで発揮されているので、今後はより細かい部分の修正、質の向上が必要となる。組織を向上させるためには、一人ひとりの責任あるプレーが必須である。普段のトレーニングから、ゲーム前のウォーニングアップから意識してプレーしなければならない。

ゲームに入るまでの指導者の関わり方(ウォーニングアップや普段のトレーニングなど)、伝え方次第でゲームの内容が大きく変わることがあることを感じた2日間であった。

普段のトレーニングで積み重ねたことは十分に発揮されていたと思うので、今後はドームでのトレーニングになるが、課題を克服し向上を目指してほしい。

文責: 釧路トレセンU-14スタッフ 菊地 勲(白糠中)